



◀ 創設した頃の女子英学塾麹町区一番町校舎にて
(本学津田梅子資料室所蔵)



▶ 機関紙『婦選』
昭和五年七月号

1946年4月10日、戦後初めての衆議院議員総選挙で、日本の女性は初めて投票しました。今年は、それからちょうど80年です。社会進出運動を支えた女子英学塾（現・津田塾大学）出身者たちもいます。たとえば婦人参政権運動の中で発行された出版物には、元学長の藤田たきが寄稿した英国女性参政権運動の中心人物シルヴィア・パンカーストや米国の女性参政権活動家アリス・ポールらの紹介記事が載っていました。日本の女性参政権運動と本学のつながりに光をあてるパネル展示を開催します。

女子英学塾と日本の女性参政権運動には、直接的なつながりがありました。塾の創立者津田梅子（1864-1929）は、1924年に設立された女性参政権組織、婦選獲得同盟の会員でした。それだけではありません。その後学長をつとめた星野あい、粕谷よし、藤田たきも、そして河井道、蟹江操などをはじめとした女子英学塾の講師たちも婦選獲得同盟の会員だったのです。卒業生の中にも婦選獲得同盟の活動に関わった人々が存在しました。

津田梅子は、英語学習を単にスキルを身につける「実学的学問」としてだけでなく、「修養的学問」としても捉えていました。「英語から得た観念、思想によって、自己の人格を開拓していくこと」（渋谷新平編『英語の学び方』所収、津田梅子「女子と英語」）が英語学習の目的のひとつでした。

女子英学塾の学生たちは、母塾で修めた英語を通して欧米の思想や文化を学び、卒業後はその知見を広く社会に還元することを試みました。西洋思想の伝達に不可欠な翻訳が重視されるなか、日々の勉学の中で、英語の文脈を捉え、的確な日本語にする「翻訳力」をも身につけていったのは必然の流れであったといえます。培われたその力は、1920年代、30年代の女性参政権を求める運動において、海外の最新事情を女性参政権組織の機関誌などで紹介するという重要な役割へと結実していきました。

女子英学塾の「翻訳力」と女性参政権運動

入場
無料

津田梅子記念交流館展示企画

日本の女性参政権八十年記念

会期 2026 5.11 MON ▶ 7.23 THU

※閉館日：土・日曜日
(ただし5月30日(土)を除く)

時間 9:00~16:30 (入館は16:00まで)

※土曜日の開館日は10:00~16:30(入館は16:00まで)

会場 津田塾大学小平キャンパス | 山根記念ギャラリー
津田梅子記念交流館

※ご来訪の際は公共交通機関をご利用ください。〒187-8577東京都小平市津田町2-1-1

西武国分寺線「鷹の台」駅より徒歩約8分/JR武蔵野線「新小平」駅より徒歩約18分
JR中央線「国分寺」駅北口より西武バス(武蔵野美術大学行)約12分「津田塾大学」下車すぐ

ギャラリートークのご案内

日時 2026年5月30日(土)

①10:15-10:45 ②13:30-14:00

登壇者 佐藤 蘭香氏

(武蔵大学 人文学部 英語英米文化学科 教授)

会場 山根記念ギャラリー

主催：津田塾大学記念事業委員会